

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p>教育目標 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p>めざす学校像 『進学も部活動も元気な、生徒が主役の学校』</p> <p>育てたい生徒像 1 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 2 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 3 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>

<p>2 現状分析</p> <p>本校は「『文武一徳』の人づくり」を教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。学校評価アンケートによると、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者によく浸透しており、学校に対する高い信頼感が醸成されている。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を精力的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。</p> <p>一方、進学実績については、国公立大学や有名私立大学の合格者の割合は減少傾向にあり、大学進学に対応できる学力の向上を一層図っていくことが喫緊の課題である。そのために、勉強時間を確保する中で生徒の学力を高め、授業改善を軸とした学力伸長のための具体的手立てを学校全体で取り組んでいく必要がある。さらに、生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対応した個別の教育相談や指導について、初期対応に重点を置きながら組織的に進めていく必要がある。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>【令和2年度の重点目標】 「夢を語り希望が叶う豊浦」 ○豊かな伝統や校風を継承しつつ、新生豊浦の未来に向けた着実な一歩を踏み出す ○ピンチをチャンスに変える 1 入学定員の充足（地域から信頼され、地域の子どもたちが進学を希望するような魅力ある学校づくり） 2 進学実績の向上（進路指導の充実） 3 学校における働き方改革の推進（時間外業務時間の削減） ※ 学校安全の充実（いつ何が起ころうとも迅速かつ適切に対応できる体制の整備）</p> <p>【令和2年度チャレンジ目標】 「Start with Smile!」 一人ひとり夢に向かって輝こう</p>

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	授業時間の確保	授業担当者の出張等による課題等の授業時間を、時間変更により解消する。	課題・自習時間が、年間持ち時間の3%以下の教員が 4: 100%であった。 3: 80%以上であった 2: 60%以上であった 1: 60%未満であった。	3	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響で、大会・出張等が例年より少なく、不在の際の日課変更が比較的スムーズに行えた。そのため、授業が課題や自習となることはほとんどなく、また、休校による授業日数の削減も行事の精選、夏季休業の短縮により、ほぼ例年どおりの授業時数が確保できた。	・コロナ禍の中、授業時数の確保がよくできていた。 ・授業時数の確保に向けた教育課程の工夫は評価できる。	B
	授業力の向上	研究授業と研究協議を通して授業改善に努める。	研究授業とそれに伴う研究協議に1回以上参加した教員が 4: 100%であった。 3: 90%以上であった。 2: 80%以上であった。 1: 80%未満であった。	2	5教科の先生方には、授業力向上のため、年に1回以上の研究授業をお願いしている。今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響による授業の遅れの回復が最優先であったためか、実施できなかった教科があった。他教科の授業参観等も含めて、積極的な授業改善に取り組むよう計画を立てていきたい。		
生徒	社会性とコミュニケーションスキルの育成	校外での挨拶、教師と生徒及び生徒同士の対話を通じ、コミュニケーションスキルを向上させる。生徒会活動や課外活動を中心に、社会奉仕活動に積極的に取り組み、地域に愛される学校づくりをめざす。	本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が 4: 20件以上だった。 3: 10件以上だった。 2: 5件以上だった。 1: ほとんどなかった。	3	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休業及び各種ボランティア行事の中止・延期により、当初目標の参加件数を下回った。一方で、生徒会による長府地域の事業所等に対する「コロナに負けない」と銘打った応援企画や、地域社会と連携した活動（城下町フェスタ櫛崎城、クリスマスコンサート、長府寺子屋、城下町長府マラソン等）、各学年及び各部活動による地域清掃活動等、生徒の自発的な準備による質重視の社会奉仕活動を実施した。	・組織的な取組により成果が上がっている。 ・自転車マナーは中学校でも同じように地域から苦情がある。中学校でも指導しているがなかなか改善が難しい課題である。	B
	交通ルール・マナー順守の徹底	自転車点検を実施する。交通安全教室を実施する。登校指導を実施する。全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内、かつマナーの徹底ができた。 3: 計画どおり指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画どおり指導ができたが、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがあまり守られなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られなかった。	3	自転車過失事故発生は5件以下であるが、長府滑石交差点の迂回路での自転車マナーに対する苦情が7月以降3件寄せられた。その都度直ちに関係生徒を集めて注意喚起すると共に、交通安全教室でケーススタディの一つに取り上げた。CS推進員への相談や、近隣校と連携した週4回の早朝現地指導も行った。行政機関に安全標識設置等の善処を要望したが困難との回答。生徒が探究学習でこの問題を研究テーマに取り上げており、今後生徒の自発的な活動につなげたい。		
	高校生活への適応と心の健康の保持 【教育相談室】	教育相談の立場から、個人の内面的問題や人間関係上の問題に対し、校外の関係機関と連携して迅速にケース会議を設置する。これを基盤に、問題を抱える生徒とその家庭へ初動重視の組織的支援を行う。	4: 学年団及び校外の関係機関と連携し、問題を抱える全ての生徒とその家庭を組織的に支援することができた。 3: 学年団及び校外の関係機関と連携し、問題を抱える生徒とその家庭を組織的に支援することができた。 2: 教育相談室として対応に努めたが、問題を抱える生徒とその家庭への組織的な支援が行われなかった。 1: HR担当が一人で問題を抱え込んで孤立し、問題を抱える生徒とその家庭への組織的な支援が行われなかった。	4	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休業の長期化に伴い、個人面談やいじめ被害調査、教員間の情報交換等、例年以上にきめ細かく生徒観察を行った。初動対応を重視し、教員間や家庭との情報共有と共通理解をスピーディに行い、組織的に支援活動を行うよう心がけた。特に、SCや県教委、外部専門機関（医療機関、地域コーディネーター等）との連携を重視した。また、サポートを要する生徒の保護者に対する相談活動にも注力した。		

進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	学年毎に、家庭での学習時間を自己管理できるよう促し、学習習慣の確立につながる取組を実施する。	家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。	3	「家庭学習をよく行っている」という項目で肯定的な意見である生徒は、全学年では61.5%であった。しかし、1学年59.7%、2学年54.7%と低学年では低い状況である。低学年からの学習習慣を丁寧に指導していく必要がある。学習量調査を今後も活用し、日々の学習時間を記録させて各担任が把握し、個人面談を密に行っていきたい。将来的に学力向上に繋げていくことができるように継続して指導していきたい。	・進路実績の向上に向け、家庭学習の充実に向けた取組を行って欲しい。 ・家庭学習時間が不足しているのは、中学校でも課題。日頃から学習意欲が高まる方法を探っていきたい。	B
	進路情報の提供の充実	進路だよりの発行や保護者向け進路通信を定期的に発行し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し進学意識の啓発を促す。	学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。	3	『情報提供が進路決定に役立っている』という項目で肯定的評価である生徒は全体で93%であった。一方、保護者については76%である。今後さらに、進路講演会を積極的に実施し、より多くの保護者にも参加してもらい進路実現に繋げられるように工夫していきたい。今後更に大きく変わっていく「学び」に向かう意欲を醸成していくために、生徒はもちろん保護者も一体となることができるよう努力していきたい。		
総務	情報提供の充実	ホームページやマチコミメール、配付するプリント等を十分に活用して、積極的な学校情報の発信に努める。	学校評価アンケートの「学校情報発信に関する」項目で肯定的評価が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。	3	例年、2学期末に学校アンケートを実施し、3学期初旬にデータを集計した後、ホームページに掲載してすべての保護者にアンケート結果を知らせている。学校への提言については、運営委員会で提示して、保護者側の学校への希望や改善要求等を示し、各課の今後の課題としていただいた。また、ホームページについては、今年度も積極的な更新を行ったが、保護者からの肯定的な評価が得られるように、更に内容の充実に努めたい。	・スマホの利用増加による本離れは、昨今の大きな課題だと思うが、本の面白さをアピールしていくかが課題である。 ・HPの情報発信の充実をお願いしたい。	B
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた蔵書を整え、特に生徒については、読書習慣の定着を図り、本の貸出の増加に努める。	今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の 4: 50%以上であった。 3: 40%以上であった。 2: 30%以上であった。 1: 20%以上であった。	3	スマートフォンの利用の増加とともに、より生徒の読書離れが進んでいるように思われる。図書委員会ではクラスごとの読書会を開いたり、図書新聞を発行したりして貸し出し増加に努めたが、図書室が十分に活用されたとはいえない。また今年度は長期休業が短く、読書感想文、読書ノートの課題を課すことができなかった。来年度の課題としては、図書室に足を運ばせるための企画を新たに考え、実践することである。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上をめざし授業の充実を図る。	4: 3学年とも目標以上であった。 3: 2学年において目標以上であった。 2: 1学年において目標以上であった。 1: 全学年とも目標に達していない。	4	新体力テストの状況で、全学年目標の数字を上回った。体育の授業でスキルアップ、体力アップを目指して授業を展開した。女子生徒も基礎体力、基礎筋力が上がってきた。	・体力向上は、豊浦高校ならではのと思う。 ・体力向上に向けた取組で成果が上がっているのは素晴らしい。	A
	学校安全の徹底	各学期ごとに施設設備等の安全点検を実施する。	施設設備安全点検後の危険箇所改善率が 4: 90%以上であった。 3: 70%以上であった。 2: 50%以上であった。 1: 50%未満であった。	3	施設の老朽化により、新たな破損箇所が見られてきた。確認をして改善修理に努めたい。		
1年	新たな伝統の基礎づくり	①基本的な生活習慣を確立させる。 ②授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣を定着させる。 ③部活動・ホームルーム・生徒会など集団における主体的な活動を充実させる。 ④挨拶の励行と思いやりのあるコミュニケーション能力を育成する。	年度末アンケートにて、「本校に入学して良かった」と回答した生徒が 4: 80%以上であった。 3: 50%以上80%未満であった。 2: 30%以上50%未満であった。 1: 30%未満であった。	4	「豊浦高校へ入学してよかったと思うか？」の質問に対して、 ①『そう思う』(109名 64.9%/119名 68.4%) ②『ややそう思う』(48名 28.6%/42名 24.1%) ③『あまり思わない』(10名 6.0%/5名 2.9%) ④『全く思わない』(1名 0.6%/1名 0.6%) であった。(生徒/保護者) ①+②の合計で生徒157名(93.5%)/保護者161名(92.5%)が「本校に入学して良かった」と回答している。コロナ禍で「学校の良さ」を感じる機会が少なかったにもかかわらず、高評価だったと思う。 【%は175名のうち、アンケート回答者(生徒168名・保護者174名)を対象に算出した値】	・新入生の満足度が高いことは、今後に希望がもてる。 ・中学校側としては、ありがたい結果である。	A
2年	自分の将来を見ずえた進路目標の設定	進路指導課・教科担当・部活動顧問等との連携を図りながら、面談等諸活動を通じ進路目標を具体化させる。また、探究活動を進める中で、生徒一人ひとりが自らの将来に向き合い、進路目標を設定していけるよう導く。	年度末アンケートにて、「自分の将来を見ずえた進路目標を設定することができた」と回答した生徒が 4: 75%以上であった。 3: 50%以上75%未満であった。 2: 25%以上50%未満であった。 1: 25%未満であった。	3	生徒アンケートでは、自分の将来を見ずえた進路目標の設定について、「設定することができた」あるいは「ある程度設定することができた」と回答した生徒が74%であり、評価基準に則り3と判断した。 総合的な探究の時間では、自分の興味ある学問分野から見出した課題について、年間を通して考察し、希望者はフィールドワークを行いながら、解決策を考え発表まで行った。この活動を通じて、生徒は自らの興味ある分野を意識し、この活動が将来に向き合う一助となったと考えている。 また、年度当初学校が休校となったり、夏休み中に大学で行われるオープンキャンパスが中止となった。自分の進路に関心をもつ大事な時期に例年とは異なる状況に生徒は戸惑いを感じたに違いない。適宜情報提供を行い、各担任を中心に面談等、指導を継続しており、その指導の成果も徐々に出てきていると考えられる。	・生徒の希望を叶えることができる取組の充実をして欲しい。 ・通常ならオープンキャンパスに参加して行けたのに、中止となり残念であった。	B
3年	明確な進路意識をもち行動できる生徒の育成	基本的な生活・学習習慣を確立し継続させる。何事にもベストを尽くす精神を涵養する。確かな情報をもとにした進路意識の高揚を促し、具体的な行動に繋げさせる。	年度末アンケートにて、「明確な進路意識を持ち、実現に向けて行動することができた」と回答した生徒が 4: 75%以上であった。 3: 50%以上75%未満であった。 2: 25%以上50%未満であった。 1: 25%未満であった。	4	3学年生徒166人に対してアンケート調査を実施した。「あなたは明確な進路意識をもち、その実現に向けて行動できましたか？」という問いに対し、「できた」が40%、「ある程度できた」が46%、「あまりできなかった」が12%、「全くできなかった」が1%という集計結果であった。本年度は大学入試改革や新型コロナウイルス感染症拡大という厳しい環境下であったが、生徒たちは進路実現に向けて主体的に行動できたようである。	・生徒の希望を叶えることができる取組の充実をして欲しい。 ・生徒の進路意識は高まっているようである。	A

地域連携	地域に期待される信頼される学校づくりの推進	地域社会や関係機関と連携した教育活動を充実させる。	教育活動を実施した回数が 4: 15回以上であった。 3: 10回以上であった。 2: 5回以上であった。 1: 5回未満であった。	3	新型コロナウイルス感染症対策のために、さまざまな行事が中止されたため、実施回数は少なくなっている。しかし、厳しい状況の中で、地域に出向いたり、地域からの協力が得られたりすることで、教育活動を工夫して取り組めた。 (長府地区まちづくり協議会との連携による応援メッセージ、豊高OBによるキャリアセミナーなど)	・コロナ禍の中できる取組が充実している。 ・コロナが終息すれば、もっとやってくれると思う。期待を込めて。	A
事務	安全安心な教育環境整備	施設設備の危険・不具合箇所について、早期に対応する。	危険・不具合の箇所の発見及び連絡を受けて、 4: 1週間以内に改修した。 3: 2週間以内に改修した。 2: 1ヶ月以内に改修した。 1: 不十分で早期に補修できなかった。	4	校務技士等で対応可能な箇所は即刻、それ以外の箇所についても、業者と日程調整し早期に改修し、事故の未然防止に努めた。	・さまざまな箇所に目配りしながら、整備が進められている。	A
		予算の効率的な執行により、最大限の効果を上げる。	事務計画に参加し、目的に沿った予算運営の達成率が、 4: 90%以上であった。 3: 80%以上であった。 2: 70%以上であった。 1: 70%未満であった。	4	教員と事務職員とで連携を図りながら、県の行財政改革の方針に基づき、効率的かつ効果的に予算執行している。とりわけ新型コロナウイルス感染症対策として、手指消毒及び検温機器を効率的に活用できるよう設置場所等を勘案し整備した。また、教育ICT化推進のため、電子黒板等を整備した。	・感染症対策をよくされていると思う。中学校にも有効的だったことを教えてもらいたい。	
業務改善	業務時間の短縮	会議時間の短縮、ノー残業デーの設定、最終退校時間の相互啓発、部活動の週一日休養日実施、年次有給休暇の積極的取得等を推進するなかでタイムマネジメント力を上げ、業務改善を図る。	業務時間の短縮率が令和元年度比の 4: 30%以上であった。 3: 20%以上であった。 2: 10%以上であった。 1: 10%未満であった。	4	1月までの在校等時間は、令和元年度は82.7時間に対して、令和2年度は53.6時間となり、短縮率は35%となり、目標を達成できている。しかし、4、5月が休校となり部活動ができなかったことが大きく短縮された要因と考える。学校再開後の6月からでは、短縮率18%となっているが、毎月の前年比は、すべての月で短縮しており、全体として、業務時間の短縮にはなっている。しかし、個人を見ると、部活動を熱心に指導する教員の業務時間が多くなっており、二極化していることは否めない。	・業務改善は、教育現場では、なかなか難しい問題だと思うが、先生方が少しずつ意識をされていることが感じられた。	B
	教職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら意識改革を行い受診率の向上を図る。	再検査者の受診率が 4: 100%であった。 3: 80%以上であった。 2: 60%以上であった。 1: 60%未満であった。	3	新型コロナウイルス感染症対策の影響に伴い今年度の定期健康診断が10月実施となり、例年よりも精密検査受診が難しい状況となったが、職員会議における受診勧奨などで意識付けを図った。1月末時点で精密検査受診率は87%。年度末までに受診率を昨年度と同様の100%とするよう継続して受診勧奨を行う。	・業務改善に向けた取組を積極的に進めて欲しい。	

5 学校評価総括（取組の成果と課題）

教務	「授業」をいかに充実していくことができるかを目標に「授業時間の確保」「授業力の向上」を重点目標に掲げた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、1学期の大幅な授業時数削減によりスタートしたが、学校行事の精選、夏季休業の縮減により、9月にはほぼ例年並みの授業時間が確保できた。自習や課題を極力少なくするよう、時間変更により対応し、急な教員の病気等による不在も、教科のみならず学年にも協力をお願いし、可能な限り授業で対応できるよう取り組んだ。また、互見授業、研究授業を実施することにより、教員の意識の向上を促すことができた。3学期に各教室に電子黒板が導入され、ICTを活用した授業の展開等、新たな取組をされる教員も多々みられた。今後はICTをいかに授業に組み込んでいくかということが新たな課題となると考える。
生徒指導	「初動が全て」をキーワードに、他分掌、校外生徒指導機関及び家庭と連携した組織的・計画的・予防的な指導を継続し、全てではないが各種問題の解決・解消を図ることができた。交通安全は、「自他の生命・安全の尊重」を軸に、同じ指導目標を数年間地道に徹底したことにより、交通事故は5件だった。しかし、自転車運転の法規やマナーについては一部に規範意識の不足している生徒がおり、外部から苦情を数件受けた。危険予測学習（交通安全教室等）と生徒主体の安全意識の啓発活動（生徒会活動・探究学習等）を継続する。コミュニケーションスキルの育成は、コロナ禍で本校伝統の入学直後の礼法指導が十分にできなかったため、挨拶を中心に現1年生及び来年度新入生への指導方法を工夫したい。部活動・学校行事の中にボランティア活動への参加を組み込む等、地域と連携した生徒主体の自主的・計画的な活動を行った。HR担任や教育相談室による面談（保護者面談も含む）を計画的に実施するとともに、生徒と複数の教員がコミュニケーションをとれる機会を増やし、生徒の多面的理解に努めた。これら日常的な生徒観察に加え、毎学期のいじめ・被害等調査により、問題発生時には早期対応・早期解決することができた。生徒は全体的に能動的で落ち着いた学校生活を送った。しかし、人間関係のトラブルは常に起こり得るので、以上の取組を基盤にしながら現行の予防的指導体制を発展させたい。教育相談活動は、教育相談室長を中心に各学年担当の教育相談係がHR担任や部活動顧問等と連携して推進した。初動対応、中学校と連携した新入生の情報交換や学校カウンセラーの活用、場合によっては医療機関とも連携した取組により、様々な問題が概ね解決し、HR担任のサポート役として教育相談室が有効に機能した。生徒の多様化により、基本的生活習慣の確立や学校不適応、通級指導に対応した指導力の向上が必要である。今後教員の研修や家庭・専門機関・地域関係諸機関との連携を深め、教育相談体制の充実を進めたい。
進路指導	今年度は大学訪問（1年）、大学説明会（2、3年）など軒並み中止となった。しかし、新しい取組として、小論文講演会（3年）、本校OBによるキャリアガイダンス（1年）、低学年対象の進路講演会（2年、1年）を行った。しかし、低学年での家庭での学習習慣が不十分であり、学力向上に繋がっていない現状がある。進路指導課のみならず、学校全体で取り組まなければならない大きな課題の一つである。情報発信の点については、『進路ニュース』の発行や『進路の手引き』の充実などを図っており、来年度もより充実したものとなるよう取り組みたい。進路講演会の実施回数を増やすことやその案内方法を改善することで、保護者の進学に対する意識をより高めていくことができるよう努力したい。
総務	ホームページについては、より新しい情報を的確に伝えられるように、昨年よりも質の高い内容を提供できるようになった。図書においては、今年度も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい文庫を提供できるように努めると同時に、図書委員会を通じて蔵書の貸出率が少しでも上がるように努力した。
保健体育	体育の授業や部活動の活動を通して、体力・運動能力の向上は図られている。しかし新型コロナウイルス感染症対策により、十分な取組とはいえなかった。授業などを工夫して次年度につなげたい。学校安全点検については、改善率は上がっていたが、老朽化が進み、改善しなければいけないところが増えてきたので、確実に実施したい。
1年	三密回避のコロナ禍では学年集会も制限され、生徒を指導する機会が激減した。コミュニケーション能力を高める（学年目標）にも対人は敬遠され、WEB等の利用が推奨された。不安な入学時に希薄な人間関係しか築けなかった中で、今の状態に落ち着いていることに驚きを感じる。担任団・生徒指導部・教育相談との連携がうまくかみ合ったことが影響していると思われる。しかし、上級生からの学校行事伝承の場を奪われ、本校の魅力を十分に味わうことができず、3年生の立ち居振る舞いが見えなかったことが今後の学校行事にも影響を及ぼすことが危惧される。また、毎月の学習時間を集計し、面談等に役立てた。クラスごと・学年全体で勉強時間ランキングを発表し、生徒の学習に対するモチベーションの向上に努めた。さらに、成績上位者（偏差値55以上）の学年主任面談を模試毎に実施し、大学進学に向けた方向付けを行った。
2年	今年度は、コロナ禍で例年とは異なり、オープンキャンパスで実際に大学を見たり、模擬授業を受けたりすることが出来なかった。また、高大連携事業も行われず、大学に直接触れる機会が減ってしまった。実際には、インターネットや情報誌で大学調べを行っている。生徒アンケートで、自分の将来を見すえた進路目標の設定について、「設定することができた」あるいは「ある程度設定することができた」と回答した生徒が74%いたが、不安も大いに抱えていると思われる。面談等を行うなど、2学年で行ってきた指導は成果を上げた結論付けられる。ただ、大学入試改革や新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受けており、生徒の進路への不安は依然高い水準にあると考えられる。今後もよりいっそうきめ細かい指導を継続していくことが肝要である。
3年	今年の3年生は2学年終盤からの新型コロナウイルス感染症拡大により、受験生としてのスタートを濁される形となった。また、部活動の各種大会もその多くが中止となり、不完全燃焼のまま引退した生徒も多かった。さらに、豊高祭をはじめとして様々な学校行事が中止や縮小となり、エネルギーをもて余すこともあった。しかし、そのような厳しい状況にもめげることなく、生徒たちは日々の学校生活を節度をもって送ってくれた。長期間にわたった休校は、やはり学習面・進路指導面において大きな影響を及ぼした。順調に進まない事へのもどかしさや焦りもあったであろうが、コンスタントに20人以上が自習室を活用して学習するなど、前向きに受験に取り組んでくれた。その結果、総合型選抜や学校推薦型選抜についてはそれなりの成果を残すことができた。また、年度末に向けて一般選抜においても最後の最後まで学習・進路指導を継続していきたい。
地域連携	新型コロナウイルス感染症対策のために行事が中止や縮小される中、こういうときだからこそという思いから地域との連携が深まったように感じられる。長府地区まちづくり協議会との協力のもと、豊高生の元気な姿で地域に貢献できたのではないかと考える。また、CS推進員の貢献度は非常に高く、学校行事への参加・アドバイス、キャリアガイダンスのOBへの講師依頼、自転車通学マナー改善のために安全標識設置を行政機関への申し入れるなど、あらゆる場面で活躍をいただいた。
事務	危険・不具合箇所の早期修繕に努めた結果、施設、設備に起因する事故は発生しなかった。しかしながら、経年劣化による不具合箇所が多数発生しているため、限られた予算の中で効率的な修繕をしていく必要がある。新型コロナ感染予防対策としての機器等の整備については、状況を見ながら迅速に対応した。
業務改善	新型コロナウイルス感染症対策やICT教育など新しい業務が次々と増えるなかで、全体の業務時間が短縮できているのは、個々の教員が効率よく業務をこなしたり、チームとしていろいろな課題に対応した成果だと考える。今後も新しい業務が増え続けることが予想されるので、組織的に業務の精選をする必要がある。また、部活動指導業務の改善策を検討する必要がある。

6 次年度への改善策	
教務	「授業力の向上」につながる取組として、互見授業の実施、研究授業やそれに伴う研究協議を計画していたが、行事の変更などにより、全ての教科で実施はできなかった。今後は、他校への公開授業への参加や、ICT関係の研修にも積極的な参加を促したい。授業アンケートの結果や評価については、継続して改善に取り組んでいきたい。
生徒指導	「安全」については、安全の三領域（生活・交通・災害）を基軸に、防犯、交通事故予防、防火防災に関する対策を具体化させる。防犯訓練、交通安全教室、災害避難訓練、AED講習等を、警察、消防、その他専門機関等の指導を受けながら、生徒会やHR活動において生徒が主体的に行動できるよう啓発指導を行う。これらを通じて生徒の生活実態に即した危機管理能力（危機回避×危機対応）の育成を図る。「豊かな心の育成」・「教育相談」については、引き続き、校内での情報共有と共通理解、家庭、出身中学校、専門機関、地域社会との連携を重視する。特に、教員の研修を深め、問題の未然防止、早期発見・解決に努める。また、若い世代の教員が増えていることから、生徒指導スキルの継承と本校生徒指導の長所である組織的対応力の充実に取り組む。
進路指導	生徒の学習習慣の定着が全学年において十分ではなかった。生徒自身の進路意識の向上と学習習慣の定着は大きく関連しており、生徒や保護者対象の進路講演会の実施や「総合的な探究の時間」の活発化を図るよう取り組んでいく必要がある。教員においては、特に模試分析をきちんと行い生徒の弱点を把握し授業に反映することを徹底したい。高い目標を持った生徒の育成に努めるため、個人面談の複数回実施にも取り組みたい。進路指導課のみではなく、学年・教科・部活動等学校全体との連携・協力体制が必要と考える。
総務	豊高ホームページについては、魅力ある豊浦高校を、豊浦高校に興味をもつ中学生やその保護者、また在校生やその保護者、そして多くの卒業生に発信できるよう、内容を改善しながら、さらなる質の向上に努めたい。また、PTA総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため書面による開催となったが、来年度は状況を注視しながら開催方法を工夫して、何とか保護者に来校してもらえる形を模索していきたい。コロナ禍の厳しい状況であるからこそ、保護者の希望や改善要求といった生の声に耳を傾けながら、学校からも保護者に様々な情報を発信していきたい。
保健体育	運動意欲が高い生徒が多いために、けがなどの発生も少なくない。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ガイドラインに沿って薬剤師の意見等を取り入れながら行いたいと考える。運動量が上がると、夏には熱中症にも気をつけたい。学校安全点検についても、破損部分などの修理や各箇所の強度の確認などもする必要があると考える。
1年	特に進学については、これまでの上級生の流れをまねるのではなく、経験豊富な先生の力を借りて、「進学校スタンダード」を直接伝えていきたい。大学入試に向けた『添削指導』や『直接指導』等の学習指導を強化していきたい。成績上位者の進路指導を強化したい。（①これまでの流れを半年～1年早めた取組、②進路資料室の入試資料の積極的活用 等）模試については、弱気な科目選択をさせない。（理系：理科2科目、文系：地歴公民2科目 等）
2年	自分の進路目標を設定することは、高校生活諸活動の意欲向上につながる大切なテーマである。人生経験の少ない高校生にとっては難しいことかもしれないが、進路目標を早めに設定できれば、学習やその他諸活動にも意欲的に取り組むことができ、進路実現にもつながってくる。ただ、生徒によっては、進路目標の設定に時間を要する場合もある。即効性のある方法は無く、生徒が大学改革の情報に常にアンテナを張り、オープンキャンパスなどに参加し、大学の情報収集ができるよう地道に手をかけて支援していくことが肝要である。また、探究活動から大学・学部選びにつなげていくことが重要であり、自己の在り方生き方を考え、課題を発見・解決し、伝える力を養うことが面接等に役立つと考えられる。今年度の初めは、新型コロナウイルス感染症対策での臨時休業など、生徒は不安な時期を過ごしており、次年度3学年では、早い段階で明確に進路目標を設定させていきたいと考えている。
3年	まずは、新型コロナウイルスの感染が収束して本来の活気あふれる高校生活が送れ、生徒たちが充実感を満喫できる状況が取り戻されることを切に願う。これこそが、本校の教育目標である「『文武一徳』の人づくり」のベースとなるものである。英語の外部試験導入や共通テストの記述式問題導入などで右往左往した本年度3年生であったが、共通テスト2年目となる来年度は落ち着いて受験生活も送れるのではないだろうか。高校入学時点の成績は、本年度の3年生はデータ的には厳しい状況であった。進路指導課のご尽力で学校全体の進路指導体制も充実してきているので、来年度の3年生は本年度の様子を踏まえ、場合によっては反面教師として捉えて、本校の重点目標である「進学実績の向上」に繋げてもらいたい。
地域連携	伝統のある校外の行事などでは地域との連携はかなりとれており、継続的に取り組んでいきたい。その一方で、学校内のさまざまな行事に地域の力を取り入れる場面を模索していきたいと考えている。また、CS推進員との連携をさらに高め、さまざまな課題の支援やアドバイスをお願いする。
事務	修繕必要箇所が多発しているため、なお一層の効率的な予算執行を図り、事故防止に努める。新型コロナウイルス感染症対策については、最優先事項として対応を続けたい。
業務改善	各分掌で業務をこなしながら、業務内容の精選をするよう心がける。部活動業務が多い教員には、考查期間中などを利用し代休や年休の積極的取得ができるように促す。その一方で、一部の教員に負担がかからぬように、学校全体として部活動指導を含めた業務の平準化を進める。